

# 日本诗选

王惟 邵明波 编

四川文艺出版社

作者：王惟，邵明波编

出版社：四川文艺出版社

ISBN：7-5411-0055-2/I12

出版日期：2000年1月

定价：2.18元

## 目 录

给我的小兄弟 .....	( 1 )
富士山情思 .....	( 2 )
秋夜对话 .....	( 3 )
有一天 .....	( 4 )
因为有我两人在 .....	( 5 )
公园酒店 .....	( 6 )
擦拭 .....	( 7 )
山冈 .....	( 8 )
存在 .....	( 9 )
早春 .....	( 10 )
远景 .....	( 11 )
痕迹 .....	( 12 )
诗情 .....	( 13 )
雪赋 .....	( 14 )
无题 .....	( 15 )
在污透的悲伤里 .....	( 16 )
寒夜的自我照 .....	( 17 )
在晚霞中 .....	( 18 )
在傍晚 .....	( 19 )
为了以后的思念 .....	( 20 )
献给繁花吐蕊的爱 .....	( 21 )
僻静的野外小路 .....	( 21 )

---

野鼠 .....	(22)
情爱 .....	(23)
归乡 .....	(24)
摇篮曲 .....	(25)
在寂静的郊外 .....	(26)
小景异情 .....	(27)
春寂 .....	(28)
生死几山河 .....	(29)
青春永驻 .....	(29)
青春的感伤 .....	(30)
海滨独唱 .....	(30)
给未来人 .....	(31)
劳动之歌 .....	(32)
要坚强活下去！ .....	(33)
柠檬哀歌 .....	(34)
与海鸟共欢的智惠子 .....	(35)
冬天来了 .....	(36)
路程 .....	(37)
婴儿车 .....	(38)
春日古刹行 .....	(39)
寄大海 .....	(40)
向日葵 .....	(43)
沉默 .....	(45)
祈死 .....	(46)
黄昏时候好 .....	(47)
山的欢乐 .....	(49)
这样的诗集谁都有一本 .....	(50)

---

交让木 .....	(52)
垃圾堆 .....	(54)
行路人 .....	(55)
谱 .....	(58)
燃烧的麒麟 .....	(59)
初夏 .....	(61)
木马馆 .....	(62)
仿佛遥远的太阳 .....	(63)
给暮空 .....	(64)
冬梦中的花丛 .....	(65)
恢复 .....	(67)
我是太阳的儿子 .....	(69)
希冀 .....	(71)
她 .....	(73)
世界光辉灿烂 .....	(74)
绿色信号 .....	(74)
北见海岸 .....	(76)
火车头 .....	(77)
自由存山林 .....	(79)
遥远的旅程 .....	(80)
千曲川旅情之歌 .....	(80)
椰子情 .....	(82)
病父 .....	(83)
苹果园的六月 .....	(85)
在春天阴暗的黄昏 .....	(87)
沉默 .....	(88)
因为世界爱我 .....	(90)

---

淡淡的悲叹 .....	(91)
初恋之歌 .....	(93)
无情的春愁 .....	(94)
幻恋 .....	(95)
无题 .....	(96)
秋天的速度 .....	(97)
过落叶松林 .....	(98)
初恋 .....	(100)
单相思 .....	(101)
接吻的时刻 .....	(102)
青春之桥 .....	(104)
人间苦 .....	(105)
那里有什么？ .....	(107)
先驱者之歌 .....	(108)
焰火 .....	(109)
忆亡母 .....	(110)
坐上火车 .....	(111)
静静地走着 .....	(112)
我 .....	(114)
活着 .....	(115)
怒气歌 .....	(117)
一棵绿树枝 .....	(118)
孤独的青春魂 .....	(119)
牡蛎壳 .....	(119)
围着火边 .....	(121)
地图 .....	(122)
海蜃之歌 .....	(124)

---

闪光的青年 .....	(126)
幻想画家 .....	(127)
铭刻 .....	(129)
美丽的大河 .....	(130)
孤独 .....	(132)
竹叶风声 .....	(133)
在人生的半路上 .....	(134)
初恋的足迹 .....	(136)
天烛台 .....	(137)
无边际的议论之后 .....	(138)
永恒 .....	(140)
一个季节 .....	(141)
幸福的预感 .....	(143)
面对实在的春天 .....	(145)
<b>爱情火炬永放光芒 .....</b>	<b>(146)</b>
你不能去冒死 .....	(146)
秋刀鱼之歌 .....	(148)
虚幻的五月 .....	(150)
那里有一个座位 .....	(151)
恋歌 .....	(153)
春雪之晨 .....	(155)
路 .....	(156)
两代人 .....	(157)
三母子 .....	(159)
我看到了 .....	(161)
浪漫曲 .....	(162)
爱之灯 .....	(163)

---

欢舞之后 .....	(165)
远乡 .....	(167)
长时间 .....	(169)
结婚 .....	(170)
微风吹来之日 .....	(171)
故乡有感 .....	(173)
洞房 .....	(175)
哀伤的接吻 .....	(176)
“爱”和“孤独” .....	(177)
初恋 .....	(178)
白壁 .....	(179)
玉蜀黍的胡须 .....	(180)
云间蜡人像 .....	(181)
纺织娘 .....	(182)
我 .....	(183)
茉莉花 .....	(184)
直到生命的灯火熄灭 .....	(185)
尊贵的释迦牟尼 .....	(185)
以我们的胆识 .....	(187)
柴刀 .....	(188)
一颗星 .....	(189)
不怕雨 .....	(190)
永诀的早晨 .....	(192)
临时包扎所 .....	(195)
荒城之月 .....	(197)
傍晚的人群 .....	(198)
我身前的锅与火 .....	(200)

---

母亲的眼睛 .....	(202)
我的诗 .....	(203)
恋歌 .....	(205)
冬天的机车 .....	(206)
短暂的生命 .....	(207)
马掌匠之歌 .....	(208)
岁末闲居 .....	(210)
花店 .....	(211)
漂泊 .....	(212)
春思 .....	(214)
黑港 .....	(215)
关于和平 .....	(217)
石工之歌 .....	(219)
陋巷悲唱 .....	(220)
猎枪 .....	(222)
十月的歌 .....	(223)
在枯野中 .....	(224)
我的上帝 .....	(225)
抱着八月的石头 .....	(227)
美丽的银河 .....	(228)
新的景象 .....	(229)
生和死的界线 .....	(231)
海 .....	(232)
云 .....	(233)
海 .....	(234)
木间疙瘩 .....	(235)
天魂 .....	(236)

---

短遗书 .....	(237)
在河边 .....	(239)
冬天的阳光 .....	(241)
父亲的歌 .....	(243)
夜校学生 .....	(244)
无处没有诀别 .....	(245)
自主 .....	(246)
第一个盂兰盆会 .....	(248)
附歌 .....	(249)
虽说是孩子 .....	(250)

## 给我的小兄弟

草野心平

如远处蓝天深处的水坑，  
你沉落到我的怀里。  
我紧紧地拥着你，  
每天给你一些难得的粗点心，  
你是如此地高兴，  
我贴着你的脸触个不停。

我想到，  
那前桥的严冬，  
你出生在那铁皮顶盖的大杂院，  
阴潮的六铺席的房里。  
于是，在尿布的彩饰底下，  
走来许多的贫穷邈邈的天使，  
你也赤身其中，  
摇动着学步向前。  
如今，我们四人同盖一床被子，  
其中一个就是最小的你，  
伏在我的怀里酣睡。  
不久，等我能把这些告诉你，  
我坚信你准会为此十分欢喜。  
我紧紧地拥着你。

(天空吸净了所有声息)

呀！去和陀螺玩吧！  
喏！我要去上夜班了。

## 富士山情思

### 草野心平

春色铺满江面，  
江面银光闪动，  
微风吹动苇丛，  
苇丛嘻嘻交头，  
光群追动欢乐。  
苇雀儿在歌唱，  
春色在它舌尖笑。

我盖着脸伏在  
堤下的苜蓿花原野。  
凝视着明媚的春色，  
满怀说不出的烦忧。

少女们摘下苜蓿花，  
用纤手编织的花环跳绳玩乐。  
在花绳甩起的孤圈里，  
富士闪了进来，所以  
她时而就在眼前，  
时而远远地坐着。

耳边，苇雀声声。  
脸上，春色闪闪。

## 秋夜对话

草野心平

冷呀！  
啊，是冷呀！  
虫儿在叫着，  
啊，是虫儿在叫呢！  
眼看要冬眠了，  
真不喜欢入土呀！  
你瘦了呀，  
你也瘦了呀！  
哪里我怎么如此难受呀，  
该不是肚子吧？  
割破肚子就要死吧？  
我不想死呀！  
冷呀，  
啊，虫儿在叫呀！

# 有 一 天

高田敏子

我始终爱着  
鲜花、小鸟、幼猫，  
与我生的小宝贝。

花谢了，小鸟死了，  
幼猫变成了十分可恶的老猫，  
在我珍爱的书箱与垫子上，  
它常常乱拉乱跑。

小宝宝也长成了大孩子，  
他们根本不懂什么爱，  
时而甩掉我的手，  
跑出去爬山玩耍……  
有一天我下定决心，  
“不再爱任何物品生灵。”  
整天躺在沙发里，  
饭菜也不烧不做，  
“不再爱任何生灵物品。”

这样反复终日，  
在我的四周，  
所有失去了意义——  
黄昏、灯火、钟表的移动，  
还有，以至我存在的价值……

## 因为有我两人在

(外一首)

高田敏子

因为有我两人在，  
其它任何也不鲜。  
阳光条条照林间，  
风比果汁还香甜，  
树叶片片词缠绵。  
草儿比沙发还随意，  
草底下，我俩的手指  
紧密地合一起。  
假如有可能，  
我愿林子对面那  
高楼上的太阳神，  
就如此停住不再走，  
离去的时刻永远别来到。

## 公园酒店

笑颜皓齿，太美！  
青春，纯真得发光。

在年轻的恋人心中，  
没有以往的回忆，  
仅有新鲜的约会交替。  
捧着大酒杯，  
在恋人的明眸中  
欢笑的姑娘哟！  
你可知往日的姑娘们，  
只管还是这样的夏夜，  
却守着孤独，  
在数着天上的流星……

此时  
我忘记了空中的流星，  
注视着那酒店中  
比星星还美的  
恋人们笑脸上的皓齿。

## 擦 拭

(外一首)

高田敏子

擦着地板  
有时头碰到柱子。  
抹着玻璃窗  
有时手指扎个刺。  
“啊，真痛！”  
自己流眼泪。  
在谁也没有的白天，  
眼泪竟这样老实，  
慢慢地  
顺着双颊落地。

痛止又开始擦拭，  
只有泪水不能控制，  
不过它已不象是  
刚刚疼痛的泪。  
那是三天前吞下的泪，  
那是一月前隐蔽的泪，  
那是两年之前  
用笑脸掩盖的  
流不尽的泪……

每当“擦拭”这个动作，  
来到唯有我的时间中，  
我的心就会再一次  
受到泪水的清洗。